

FRANZ SCHUBERT

フランツ・

シューベルト シューマン

ROBERT SCHUMANN

ロベルト・

ピアノソナタハ短調 D 958

Klaviersonate c-moll D 958

フモレスケ Op.20

Humoreske Op.20

大根田 えみゆ

ピアノリサイタル

2026.

6.27 (土)

18:45 開演
(18:20 開場)

FREDERICK CHOPIN ショパン

フレデリック・

スケルツォ 第2番 Op.31 Scherzo No.2 Op.31

横浜市栄区民文化センター「リリス」ホール

JR 京浜東北線「本郷台」駅より徒歩5分

【チケット取り扱い】全席自由2,500円 (当日券3,000円)

◇横浜市栄区民文化センター「リリス」ホール 窓口販売 (9:00~21:00)
現金のみのお取り扱いになります。休館日がございますので、お気を付けてください。

◇郵送 (お振込み) メールにて、お名前、枚数、郵送先をお願いします。

主催 ピアチェリエ・プロジェクト info.pia2833@gmail.com

※メール受付はコンサート前日17:30まで。 ※未就学児の入場はご遠慮ください。

シューベルト 記念碑的ピアノ・ソナタ シューマン 渾身の大作

「野ばら」「ます」「菩提樹」「未完成交響曲」・・・誰もが自然に親しむ美しいメロディーを作曲した、フランツ・シューベルト(1797-1828)。ベートーヴェンが亡くなって8か月後、31歳で息を引き取った。

音楽の都ウィーン。多くの芸術家が憧れ、活動したが、彼は生まれも育ちもその生涯のほとんどをこの地で過ごした。000以上の作品を残し、次から次へとメロディーが浮かぶので、楽譜におこすのが追いつかないくらいであったといわれる。【ピアノ・ソナタD958】は、自身も予期しない早すぎる死の3か月前に、一心不乱に完成された最後の3つのピアノ・ソナタで、「3つ子のソナタ」と呼ばれ、これまでのソナタを一新した大規模なスケールで描かれており、最高峰のピアノ・ソナタのひとつに数えられる。古き良きウィーンの雰囲気を醸わせながら次世代に導かれる。そして、シューベルトを敬愛する作曲家、ロベルト・シューマン(1810-1856)は、ウィーン滞在の折、シューベルトの最期を過ごした彼の兄の家を訪ね、机に山積みになされた楽譜の中から「大ハ長調」交響曲を発見した。大感動とともに、ライプツィヒにいるメンデルスゾーンに楽譜を送り、ゲヴァントハウスの演奏会で初演され、シューベルトは大作家として、あらためて広く知られるようになる。シューマンは『最も細かい感情や思想から、外部の事件や生活の境もついて音を持っていた…シューベルトと同じような人々が生きているのであるから、人生はまだ生きる価値が充分あるのだ』と文章を残している。

19世紀初頭、愛、情熱、幻想、夜、憧れ…というような、ロマンティックな世界に芸術家たちは惹かれ、シューマンもまさにその世界を存分に生きた作曲家であろう。幼い頃から古今東西の本に囲まれて熟中し、それによって育まれた心によって開花した。当時の大ピアニスト、クララ・ヴィークとの大恋愛、結婚は彼にさらなるインスピレーションを与え、多くの名曲が生まれる。彼は音楽評論家としても活躍し、雑誌を刊行、若きショパン、ブラームスを世の中に発表した。彼の研ぎ澄まされた文章と感性は、当時の音楽事情が知れるだけでなく、100年、200年後にも残る音楽にずさわりたいという想いが計り知れない。ショパン、クララ、メンデルスゾーン、リスト。周りは華やかに演奏活動するなか、シューマンは黙々と作曲を続ける。敬愛する作曲家であるバッハ、ベートーヴェン、シューベルトに思いを馳せながら…。【フモレスケOp.20】は、「フモール」という感情がテーマで、『音符を描いては…微笑みながら涙しました』という彼の言葉通り、ずっと描きたかった心の揺れ動く感情、涙の先にある人生の美しさ、情熱、時間が止まったような寂が音楽となる。伝統的なクライマックスに向かってゆく作曲法ではなく、静かに語られてゆく様々な場面が繰り返られ、人生の讃歌となる。途中、楽譜が3段になり「内なる声」という旋律が加わり、演奏家の心で歌われる。ひそやかに耳を傾ける人に…そっと寄り添ってくれる作曲家である。

作曲家がいて、演奏家がいる——。作曲家の求めるものを、楽譜に忠実に音色にしてゆく。演奏技術だけでなく、人生をかけて作曲された重みを感じながら、それぞれの生まれた国、歴史、時代、作曲家の生涯、作品の書かれた経緯を知り、現代に再現してゆく。

ピアニストが同じ曲を演奏することがあっても、まったく同じ演奏はありえない。その時の年齢、経験、心境、空気…様々なものが織りなされたところから生まれた曲は、その場で鳴り響き、瞬時にして消え、とどまることを知らない。けれどあの日、私の心に残ったあの曲のように、人に強く残すことは出来る。舞台上で優しく、時にさびしく見守ってくれているであろう偉大な作曲家たちが微笑んでくれるそのときまで、私のピアニスト人生は続きます。

今日も私は演奏します。演奏家の誰もがそうであるように、1年365日その日のために日々準備しています。約200年前に書きしるした音符が私の指を通して皆様にお届けすることは、この日のために準備してきた私に対するご褒美の日でもあります。曲想に合わせ選んだお気に入りのドレスに着替え、日頃の想いを皆様にお届け出来る日。この広い舞台上に1台のピアノと私。時代を超えて大作曲家と向き合える神聖な場所で、聴く人だけが味わうことの出来る幸せな時間。尊敬する偉大な作曲家が残してくれた作品を、敬意と感謝をこめて私の全神経、全感性、技術、すべてを出しきり演奏したいと思えます。長い間、演奏家たちが受け継いできたものを、一人でも多くの方に伝えていけたら…。ほとぼる音楽への情熱を美しい音色へと昇華したい。計り知れない想いで残された音楽は、現代でも新鮮に響き、それぞれの心の扉を開き、時に勇気を、時に涙を、時に喜びを与えてくれます。皆様にとりましても心躍るひとときになりますように…。さっと素敵な演奏をお届けいたします。

Pianist 大根田えみゆ Ooneda Emiyu
桐朋学園大学ピアノ専攻を2009年卒業。第30回 TIAA 全日本クラシックコンクール、審査員受賞。2009年にデビューリサイタル、翌年にはショパン生誕200年を記念したオール・ショパンプログラム、ベートーヴェン3大ピアノソナタなど、古典派から近代まで幅広いレパートリーで、ヴァイオリン・ソナタやチェロ・ソナタ、ピアノ三重奏、室内楽にも積極的に取り組む。2019年、デビュー10周年ショパン・バラード全曲リサイタル、ベートーヴェン生誕250年リサイタル、これまで毎年リサイタルを届けている。

神奈川県横浜市栄区小菅ヶ谷1丁目2-1
横浜市栄区民文化センター「リリス」ホール tel.045-896-2000

